

葉ゴボウ「恩地極早生白茎」の小型ハウス、トンネルおよび露地栽培による作期拡大							
[要約] 葉ゴボウ品種「恩地極早生白茎」は小型ハウス、トンネルおよび露地で栽培することにより作期の拡大が可能である。9月下旬播種では小型ハウス、トンネルおよび露地栽培で2月中旬～4月上旬まで、10月下旬播種では小型ハウスを利用して、3月下旬～4月上旬まで出荷できる。							
豊前分場・普通作物・野菜研究室					連絡先	0930-23-0163	
部会名	園芸	専門	栽培	対象	根菜類	分類	普及

[背景・ねらい]

軟弱な茎葉を利用する葉ゴボウは、本県では飯塚地域において大型ハウスを利用して、2月どりが行われているが、市場からは長期出荷が要望されている。

そこで、容易に栽培に取り組める小型ハウス、トンネルおよび露地栽培により作期を拡大する。

[成果の内容・特徴]

1. 葉ゴボウ品種「恩地極早生白茎」は9月下旬に露地で早播きしても休眠しない(データ略)。抽だいは3月中旬から始まるが、4月上旬でも40%程度であるので、露地栽培では4月上旬まで作期を拡大できる(表1)。

2. 9月下旬播種では小型ハウス、トンネル、露地栽培により作期拡大が可能で、2月中旬～4月上旬まで収穫できる(図1)。10月下旬播種では小型ハウスにより3月下旬～4月上旬まで収穫できる(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 福岡県推奨品種一覧表に登載し、葉ゴボウの栽培指針として活用できる。
2. 小型ハウスは間口2.5m、高さ1.6m程度のものを、トンネル栽培では幅0.9m程度で、高さ0.65m以上のトンネルを用いる。
3. 株の生育が過剰に促進されると抽だいが早くなるので、早期の被覆や過剰な施肥は避ける。
4. 4月中旬以降ほとんどの株が抽だいするため、収穫は4月上旬が限度である。

[具体的なデータ]

表 1 播種時期および施設別の収量（平成11年）

播種日	施設	収穫期間 (月日)	抽だい株 率(%)	商品株率 (%)	収量 (kg/10a)
9 / 20	大型ハウス	2 / 10 ~ 2 / 25	0	69	1551
	小型ハウス	"	0	60	1404
	トンネル	3 / 10 ~ 3 / 28	26	50	917
	露地	4 / 4 ~ 4 / 7	56	41	896
10 / 20	小型ハウス	3 / 28 ~ 4 / 7	19	52	1506
	トンネル	収穫不能	100	0	0
	露地	収穫不能	100	0	0

注) 1. 大型ハウスは間口5.4m、高さ2.8m、小型ハウスは間口2.5m、高さ1.6mの規格のものを用いた。図 1 も同様。

2. 商品株率、収量は、抽だいや岐根の発生がなく、かつ葉柄長が35cm以上のものについて算出した。

施設名	9	10	11	12	1	2	3	4
大型 ハウス	【慣行】 _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____							
小型 ハウス	_____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____							
トンネル	_____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____							
露地	_____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____ / _____							

図 1 葉ゴボウの作型

注) : 播種、 : 茎葉切除、 : トンネルおよびビニル被覆、 / : 収穫

研究課題名：簡易施設を利用した葉ゴボウの栽培技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成11年度（平成11年）

研究担当者：林田達也、片山貴雄、尾形武文

発表論文等：平成11年豊前分場野菜試験成績書